

公表：令和3年3月31日

事業所名 子ども育ちの家「て・い・く」

		チェック表	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等 スペースとの関係で適切 であるか。	○			児童発達支援用の部屋 で療育を実施してい る。人数に適した広さ のため集中力が向上し た。また、裏の空地に は砂場やトンネル等を 設置し、屋内と屋外に 分けて活動を提供して いる。	裏の空地を利用して、菜園や砂 場、丸太を使ったサーキットを 設置した。又、三輪車や自転車 の練習もできるようにスペース を拡張した。菜園では季節の野 菜を植えて収穫の喜びを体験し た。
	②	職員の配置数は適切であ るか。	○			保育士を1名増員して支 援内容を充実させた。 集団療育と個別療育に 分けて時間を有効活用 している。	年度途中からニーズに基づいて 個別療育を充実させるようにし た。個別は1対1の療育を基本と し、終了後は毎回、反省会を実 施するようにした。
	③	生活空間は、本人にわか りやすく構造化された環 境になっているか。また、障がいの特性に応 じ、事業所の設備等は、 バリアフリー化や情報伝 達等への配慮が適切にな されているか。	○			部屋を6畳の小部屋にし て教材を分かりやすく 配置した。視覚的にも 構造化した配置にして いる。また、プレイ ルームは安全マットや じゅうたん等を敷いて 安全面に配慮してい る。	集団療育後は、部屋やスペース を間仕切りするようにして構 造化を図るようにした。バリアフ リー化はもともと個人の住宅で あり、完全な構造上厳しい面 がある。
	④	生活空間は、清潔で、心 地よく過ごせる環境に なっているか。また、子 ども達の活動に合わせた 空間となっているか。	○			毎朝、全職員で掃除を 徹底している。又、コ ロナ過でもあり使用す る教材、遊具、机等は 消毒を徹底してい る。。活動空間が確保 できるように中央部を 広く取り、教材等は柵 や押し入れ等に配置し ている。	屋外の空地も砂場やタイヤ、丸 太の切株等の遊具をはじめ、三 輪車や自転車の練習ができるよ うに整備した。ミニ菜園では季 節の野菜が収穫できるようにし た。安全に、伸び伸びと活動で きる環境が整った。
	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設 定と振り返り）に、広く 職員が参画しているか。	○			職員ミーティングで当 日の活動内容や利用者 一人一人の目標及び課 題について共通理解を 図っている。	モニタリングやアセスメント表 及び毎日の療育記録簿をもとに 職員間で情報を共有するよう にしている。
	⑥	保護者等向け評価表によ り、保護者等に対して事 業所の評価を実施すると ともに、保護者等の意向 等を把握し、業務改善に つなげているか。	○			保護者向けアンケート 連絡帳、一斉メール等 によってニーズを把握 し、また事業所の方針 等を伝えている。	今年度から定期的に計画書やメー ル等で活動内容を知らせるよう にした。併せて、内容の充実を 目指したい。

業務改善	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○			令和3年3月の便り及びホームページに公開する。	ホームページの更新が滞っている。自己評価の公開に併せて充実していきたい。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		委員は選出しているが、コロナ禍でもあり開催できなかった。	外部評価等については資料等の提供もしていないのでコロナが収まり次第、開催する予定である。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○			職員の人材育成及び利用者に対するスキルアップの向上を目指し、研修には勤務を調整して参加するようにしている。また、月に1回程度、事業所内でも実施している。	研修会への参加はコロナ禍で断念した。昨年、発達障がい児初級資格講座等にも参加している。引き続きスキルアップと資格取得のために参加体制を整えたい。
関係	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			職員の人材育成及び利用者に対するスキルアップの向上を目指し、研修には勤務を調整して参加するようにしている。また、月に1回程度、事業所内でも実施している。	発達障がい児初級資格講座等にも参加し、資格取得を目指している。コロナ禍でもあるが職員研修には力を入れたい。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○			日々の活動をとおして利用者の特性を把握し、支援計画を立てている。今後は独自のアセスメントツール作成して支援計画に生かしたい。	昨年からアセスメントシート(3～5歳)を活用してモニタリングや連携会議に臨んでいる。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			支援計画は、本人の様子、保護者のニーズを踏まえて作成している。ガイドラインにある家族支援、福祉との連携も十分視野に入れて作成している。	開所以来、外部の専門家に個別面談等を依頼しているが、今年度も引き続き依頼し、その内容を踏まえて支援計画に活かしたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	○			毎朝のミーティングで、前日の支援内容や活動時の様子をその都度検証し、支援計画から外れないようにしている。	日々の個別療育の結果等を踏まえ、個別支援計画と整合性を持たせて支援内容を充実させていく。

⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			週及び月単位で活動計画を立てている。作成時は職員ミーティングで内容を検討している。	活動計画や療育の内容は朝及び療育終了後のミーティングで内容を検討している。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			週及び月単位で計画を立てている。季節の行事と併せて内容の充実を図っている。	季節の行事や文化的行事は利用者の意見を尊重して計画を立てている。必要に応じて最低限の自己負担が発生する場合もある。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか。	○			支援計画の項目には個別対応と集団的活動を入れている。よって、適宜、子どもの様子で組み合わせている。	今年度から個別の療育に力を注いでいる。終了後は一人一人の療育内容について結果等を出し合っている。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○			毎朝の職員ミーティングで活動内容と個別の目標を共有している。また、利用者の状況に併せて活動グループも編成している。	勤務の関係で、時間の確保が課題である。僅かな時間でも内容を精選してミーティングをするようにしている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			時間がある場合は活動の振り返りをしている。できなかった場合は、職朝ミーティングで行う。	支援記録簿を作成して、短い時間を有効活用している。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録は欠かさず付け、新たな課題等が出た場合はその日のうちに情報を共有する。	担当を決めず、各々に記録を取りながら振り返り時に情報を共有している。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。		○		保育園等との連携会議に併せて支援計画やアセスメント表を提示し情報を共有した。	小学校入学時は、支援シート（市福祉課）等を活用し、利用者に係る支援ネットワーク会（移行支援）を確立していきたい。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか。	○			自発管だけでなく、必要に応じて担当者が同席している。	必要に応じて、相談事業所に連絡し臨時的に関係機関との連携会議を依頼する。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			関係（子ども保健課）機関が来所して情報を収集することもある。また、状況に応じて情報を提供する。	可能な限り、利用者に係る様々な関係機関と連携を図っていく。

関係機関や保護者との連携

②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。				該当者無し	
②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。				該当者無し	
②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			必要に応じて、保護者の承諾を得たうえで、支援計画を関係機関にも提示し、連携会議を開いて情報の共有に努めている。	連携会議は相談支援事業所が中心になって行政も含めて会議を開催している。当該事業所では独自の指導計画、アセスメント、個別支援計画等を提出して会議に臨んでいる。
②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			保護者の依頼を受け、小学校入学に向けて支援シートを作成した。常に情報を共有し、二者三者で連携した支援体制を確立する。	移行支援に関して、保護者や相談事業所からの依頼があれば開く方向である。
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			西区では定期的に発達支援ネットワークを開催している。毎回、職員で参加している。また、熊本市主催のステップアップ研修等にも毎回参加している。	他専門機関等の要請には常に応じて指導助言を受ける体制である。残念ながら今年はコロナ禍で殆ど参加できなかった。
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	事業所間の調整が難しく、現在、その予定はない。	保護者や当該事業所からの依頼があれば実施する。
②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			日程が調整出来たときに参加している。 (にしまるネットワーク会議)	案内があれば出席する。開催状況等の情報が不足している。
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			日々連絡帳をとおして、家庭における子どもの体調等を把握し支援に臨んでいる。事業所での活動については、詳細に記載して家庭に知らせている。	昨年から写真集を作成し、希望者に配付している。また、保護者一斉メール等を活用して情報の共有に当たっている。

③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○			定期的に講師を招聘して、「りょういく懇談会」を開催しているが、今年はペアレントトレーニング研修会を初めて実施した。	保護者に、療育の専門家を紹介したり、当事業所で個別面談を実施してきたが、残念ながら今年はコロナ禍でその機会がなかった。
③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に資料を提示して説明し、了承を得たうえで契約をしている。	説明資料を精査し、内容の理解に努める。
③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			契約時に当該事業のパンフレット及び関係機関に定期的に配付する便り、ホームページ等を元に、ガイドラインの趣旨に基づいた支援を提供することを説明している。また、支援計画のサンプルを示し、幼保、小中学校等との連携の資料としても承諾を得るようにしている。	児童発達支援については研修の機会を設け、ガイドラインの目的に沿った支援内容と当該事業所が目指す方向性を確認し合った。
③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			保護者の悩み等については迅速に、丁寧に又、真摯に対応するように心がけている。また、療育の専門家による個別面談も実施している。	今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために従来開催してきた「りょういく懇談会」の開催は見送った。収まればまた開く予定である。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○			昨年度は保護者会＆ペアレントトレーニング研修会を実施した。多くの保護者が参加され有意義な会になった。	年度当初は開催の方向で計画を立てたが、新型コロナウイルスのため開催を断念した。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			保護者の依頼による関係機関との連携会議には必ず出席し、突発的な依頼にも迅速に対応している。	個人情報保護の範囲内で事業所内における活動の様子を提示する。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		「て・い・く」便りを月1回発行、またHPでも知らせてきた。配付先は、保護者、見学者、幼保育園、小中学校、相談支援事業所など。今年度は実施できていない。	月1回の配付を目指したが、残念ながら一斉メール等の配信のみに終わってしまった。係や体制を整えて月1回の発行に臨みたい。

非常時の対応	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○			活動の様子は画像及びビデオ等で保護者、連携会議時の資料として保護者同意のもと提供している。契約時に個人情報に関する同意書を交わしている。	ホームページを作成しているので、活動紹介等については今後とも十分配慮する。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			聴覚に障がいのある保護者にはメールで情報を伝えている。また、第一言語が手話である利用者にも簡単な手話を使ってコミュニケーションをとっている。	緊急時の連絡等をリアルタイムで行う場合は、携帯メールが欠かせない。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			もちつき会が恒例となり、今年は多くの参加希望が予想された。結果、感染対策のための密化が避けられないと判断されたので関係者のみの開催にした。	当該事業所の方針として、地域の方々が参画できるような行事を今後も計画する。現状はコロナ禍のため開催は見合わせる。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各マニュアルを作成しているが、保護者へは知らせていない。HPや便りをおして周知したい。訓練は火災訓練のみなので今後は、不審者対応訓練も取り入れていきたい。	ホームページや便りをおして周知する。避難訓練は火災のみなので今後は、地震や不審者対応も実施する。事業所内には掲示している。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			火災避難訓練を実施している。今年は津波等の自然災害避難マニュアルを作成した。	毎年、火災、地震、不審者対応訓練を2～3月に1回実施する方向である。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			契約時に十分確認している。また、感染症のまん延期には職員はもとより、利用者の予防接種状況及び事業所内の対策等を保護者に知らせている。(連絡帳他)	事業所で服薬を使用する利用者はいないが、生命に関わることであり、今後とも慎重を期して臨みたい。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	無			食アレルギーに関しては、契約時に保護者から情報を得ている。事業所として食事提供はしていないが、おやつには十分配慮している。医師の指示書を必要とする利用者はいないが、あればそれに基づき対応する。	食アレルギーについて確認はしているが、おやつ等の提供もあるので、保護者とさらに連携していく必要がある。

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○		事例集まで至っていない。現在、利用者も増え送迎も含めリスクは高くなっているため、常に細心の注意と危機管理意識を怠らないようにしている。	小さな事でも情報を共有し、ヒヤリハットの作成と定期的に内容を検証して事故防止に努める。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		職員の倫理綱領に謳っている。定期的に読み合わせなどを行っている。	マスコミ等で話題になる度に個々の職員に自覚を促している。今年度は県北の入所支援施設で発生した支援員による虐待事件について研修した。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		契約時に十分内容を説明し、同意書を取っている。	同意書には当該事業所の責任者と個々の利用者に担当を割り振って自覚を促している。個別支援計画には、事前の聞き取りにより、必要に応じて支援計画に記載する。